

平成21年7月1日

## 7月7日から、全国の百貨店において

### 業界統一の「スマート・クール・バッグ」(保冷タイプ)を販売

～高知発認証第1号オフセット・クレジットでのカーボン・オフセット付きバッグ～

日本百貨店協会（会長：鈴木弘治(株)高島屋取締役社長、会員数：87社259店舗）では、容器包装削減キャンペーン「スマートラッピング」の一環として、7月7日（火）より、全国の百貨店で、業界統一の『スマート・クール・バッグ』（保冷タイプ）を販売いたします。

今回販売する『スマート・クール・バッグ』は、高知県生まれの国内認証第1号オフセット・クレジット（J-VER）によるカーボン・オフセット付きの保冷バッグとなっています。

#### 「スマート・クール・バッグ」の概要

- 素材：ポリエステル（アルミ蒸着）
  - サイズ：縦35.5×横45×マチ17（cm）
  - 仕様：保冷タイプ
  - 色：ライトグレー×ミントグリーン／ライトグレー×ピンクの2種類
  - 価格：希望販売価格 税込300円
  - 発売日：7月7日（火）より販売
  - 製作企画：イトキンファン株式会社
  - 販売個数：全国の百貨店で限定2万枚販売
  - カーボン・オフセット付き：高知県のオフセット・クレジット（J-VER）を活用
- ※「カーボン・オフセットクレジット（J-VER）」国内のプロジェクトによる排出削減・吸収量をカーボン・オフセットに用いられるクレジットとして環境省が認証するものです。
- ※「高知県木質資源エネルギー活用プロジェクト」高知県のセメント工場のボイラー燃料を、化石燃料から、伐倒されたまま森林に放置された枝葉等に代替し、温室効果ガスの排出削減をはかるプロジェクトで、オフセット・クレジット（J-VER）制度認証第1号プロジェクトとして本年3月に認証されました。
- ※「カーボン・オフセット」自らの温室効果ガス排出量を把握し、省エネなどの努力をしてもなお排出してしまう温暖化ガス（CO<sub>2</sub>など）を、別の場所・別の人が行う「温暖化ガス削減の取組」で生まれたクレジットを購入することで削減効果を得て、埋め合わせする仕組み。（株）リサイクルワンの協力で実施しています。



## (ご参考)

### ■「スマートラッピング」キャンペーン ～循環型社会の構築を目指して～

百貨店では、環境負荷の低減のため、消費者自らが使い道にあった包装を選択する「スマートラッピング」を呼び掛けています。容器包装の適正化、容器包装材使用量の削減や再生包装材の利用に取組み、その方法の一つとして、ふるしきの普及やマイバック運動等を推進しています。

「スマートラッピング」 平成18年6月5日創設、毎月5日は「スマートラッピングの日」

「贈答品はきちんと包む」・「ご自宅用品はシールのみ」・「まとめて入れる」といった、メリハリのある包装を、お客様が選択する「自らが考え・選択する」(スマートコンシューマー)ための呼びかけ。



## 百貨店業界統一バッグ

容器包装の削減に向け「スマートラッピング」を通して、百貨店が一丸となり、統一ポスターをツールとしてお声かけ、レシートへの印字や店内放送等を中心に取り組んでいます。

レジ袋に関しては、有料化だけではなく、百貨店らしい対応が必要であることから、平成19年初めて、百貨店業界統一「レジ袋」を2万枚限定販売しました。

※Myスマートレジ袋は、サンケイリビング社「助かりました大賞」エコ部門金賞受賞



日本百貨店協会「Myスマートレジ袋」



平成19年7月、第2弾を温室効果ガス排出権によるカーボン・オフセット付き商品「デパート・レジバッグ」を販売しました。売上げの一部が、国連CDMが認証したCO<sub>2</sub>削減プロジェクトの費用にあてられ、このバッグ1枚で約12kgのCO<sub>2</sub>削減効果があります。

※デパート・レジバッグは、有限責任中間法人日本カーボン・オフセットを通じ、国連が認証した事業(CDM=クリーン開発メカニズム)から得られる国連基準に準拠した排出権で、

ブラジル小規模水力発電プロジェクト(国連CDM理事会承認番号:0667)に充てられ、238トン排出削減しました。

※統一バッグは、循環型リサイクルシステム「エコサークル®」の繊維を使用し、何度でもリサイクルされます。

## レジ袋ご不要カード

平成20年7月より、マイバッグ利用促進と連動させ「お声かけ」等の徹底を図ることを目的として、「レジ袋ご不要カード」を店内の集中レジに設置し、レジ袋を必要としないお客様が意思表示を容易にできるよう、業界統一カードを導入、実施しています。



### ■日本百貨店協会の平成21年度『環境対策10のアクションプラン』

百貨店では、全事業活動において、環境負荷・社会的コストの低減を図り、環境と経済の両立に資することを重要な経営課題としています。容器包装材使用量の削減、環境に配慮した商品の充実などを推進するとともに、自らが排出する廃棄物の減量化、適正処理、再資源化に努めています。

また当協会では、百貨店の環境負荷・社会的コストの低減を図るための様々な支援活動を行い、取組みを強化しています。

現在、平成21年6月1日（月）～9月30日（水）までのクールビズ期間中には、冷房温度を2℃程度高くする活動を行っています。この活動は、お客様からもご理解をいただき、また内外から高い評価をいただいております。昨年度（洞爺湖サミット開催日の7月7日～8月6日の1か月間）より取組みを強化し、お客さまと共に業界が一丸となって取り組んでいます。

#### 日本百貨店協会が取り組む「環境対策10のアクションプラン」

1. スマートラッピングの普及推進（スマート・クール・バッグ）
2. 夏場の「冷房温度緩和」の取組み強化（6月1日～9月30日の4ヶ月間）
3. 省エネ照明の普及促進（LEDの導入促進）
4. 「ベンチマーク（百貨店の共通評価指標）」等によるエネルギー効率改善
5. ESCO（エスコ）事業のさらなる普及推進支援
6. クリーンエネルギー普及拡大（太陽光発電や風力発電の普及拡大）
7. カーボン・フット・プリント（CO2排出量の商品表示）の研究
8. 環境ビジネスの取組み（環境配慮型商品・カーボン・オフセット商品の拡大等）
9. 百貨店の環境活動のPR事業推進
10. 環境対策・省エネ対策の実践セミナー等の開催